



ゆったり
のんびり
ほほどほに
「仏」を目指して
歩むのが「仏教」

日本にとって戦後最大のテロと言われたサリン事件と一連の殺人犯罪を起こした、オウム真理教の首謀者松本智津夫とその仲間7名が一度に死刑執行されたというニュース速報は衝撃でした。

それは死刑ということの生々しさを想像させ、それにも増して、事件当時、あれほど騒がれ、恐れられ、宗教や教育の根本が問われたにもかかわらず、もはや社会の中で風化され忘れ去られようとしていたことにハッと気づかされたからです。私ども仏教者にとっても、あの教訓が自らの宗教に生かされてきていたでしょうかと自問しています。

* * *

オウム真理教も「仏教」を名乗っていました。しかし、「仏教」とはあくまで「仏になる教え」で、最も強く説かれているのが「不殺生」です。それにもかかわらず、彼らが信じきり、家族や職を捨てさせ、人より上にを目指させ、そのためには殺人をも正当化することへと走らせたのはどういうことだったのでしょうか。

仏典を読み返してみると、悟りを得られたお釈迦様は、

自らの悟りを反芻し、静かにずっと味わっておられたと書いてあり、この間「無言語」だったと言います。

なぜなら、そもそも真理（悟り）というものは言語化できないもので、極端に言えば、言語化したとたんに真理が真理でなくなってしまう、言葉にすると必ず歪められるからです。このことは、同じく「法」と呼ばれる憲法をみてもわかります。平和の願いを日本国憲法の前文にに掲げても、解釈次第で歪められていくのと同様です。

お釈迦様は苦行を続ける中で、「生まれ育った王子としての贅沢な暮らしも、厳しい苦行も極端である。極端からは真理は得られない、私は中道を行く」と宣言されます。仲間たちは「中途半端なことはやめる、もうすぐ悟りが開ける」と反対しますが、お釈迦様は、「私がいつている中道というのは、中途半端な道ではない。仏になることを目指して生きる、ゆったりとした歩みなのだ」と応えて苦行を放棄し、「中道」という悟りに至られたのです。

* * *

苦行や極端なことは、いったんのめり込むと、なかなかやめられないという「麻薬性」があります。お釈迦様は、極限の苦行の中でも「麻薬性」に冒されず「中道」を見つけ、その道を

歩まれたからこそ、時代が変わろうとも普遍なる真理を得て「ブツダ」となられたのです。

オウム真理教という集団は、お釈迦様が苦行の中でも冒されなかった「麻薬性」「言語化」「形式化」に極端に陥った集団だったと言えるでしょう。

お釈迦様の仏教は、人より上を目指して励むというようなものではなく、ただただ「自分の得た真理をみんなに伝えて生きる」という歩みです。この「みんなに」こそ「慈悲の心」であり、「中道」でしか得られない「救い」でもあります。

「中道」とは、上と下、右と左、暑い寒い、などの平均を意味するものではありません。極端を排した「いい加減」なのです。「いい加減」は人によっても、また状況の変化によっても違ってきます。ただただ大事なことは仏を目指して歩むことで、「これでは遅い」とか「人より先に、人より上に」は「中道」ではありえません。大切なのは到達を見定めることではなく、仏の方を向いて歩くことなのです。その道は一人一人の短い命では到達できない遠い道のりですが、今私たちはご先祖からの「菩薩の道」を繋いでいます。その道を途切れさせることがないようにゆっくり歩むことが、新たなオウムを生まないことに繋がります。合掌

奏庵法座

盆会

日時
7月26日(木)
午前11時より
「真宗宗歌」
阿弥陀経
法話
ご文章拝読
「恩徳讃」
～*～
おとき

お暑うございます。

うだるような暑さの中、お墓にお参りして何に手を合わせていますか。それがお骨だけであったとしたら、寂しいことです。

大災害も絶えず、明日のいのちは誰にも確かではありません。仏様が真に願い、伝えようとしておられることは何かに思いを馳せることが仏縁に応えることです。

お盆の集いです。熱中症に気をつけて、無理をせず、ゆっくりお参り下さい。



お盆のお参り

厳しい暑さとともに、今年もお盆がめぐってまいります。

仏事の中でもお盆は季節の風物として、また地域色が強い仏教習慣です。特に全国各地から集まれた首都圏では、自分の中に育まれた郷愁によって勤められることが多いようですが、それぞれが混ざった日本風宗教と言ってもいいものにも惑わされがちです。

浄土真宗のみ教えには、先祖の魂があこの世とこの世を行ったり来たりするような教えはありませんが、久しぶりに夏休みに帰省し集まった家族を一つにするはたらきに、仏さまより勝るものはありません。この仏縁を大切にさせていただきたいと願っています。

ご家庭へのお参りは、初盆などで時間を決めてお集まりになる以外は、各方面をまとめてお参りさせていただきたく、ご依頼はお早めにご連絡下さいますようお願いいたします。

尚、お盆期間中の庵へのお参りは、いつでもご自由にいただだけますが、その際読経をご希望される場合は、事前にご連絡下さい。

お知らせ

例年の通り、8月は「奏庵法座」、寺報「かなであん」は休ませていただきますが、ご法事などの仏事はお勤めさせていただいておりますので、ご連絡下さい。酷暑の候、どうぞお大切にお過ごし下さい。

タイの洞窟から子供達とコーチ13人全員が救出された。救助に当たっていた一人が亡くなったのは残念なことだったが、救出完了後の司令官は最初に「この成功が奇跡だったのか、科学の力だったのか、わかりません」とコメントした。■短いこの言葉には、どこからも言葉を挟む隙のない完璧さと凄みがあった。仏教国タイの司令官として、十分な資質、説得力、精神力、冷静さを感じた。■日本では今年も、広島、岡山、四国などの広い範囲を水害が襲い、その被害には、自然のものと、膨大な文明の瓦礫が入り混じる。命を落とした人、助かった人、「あの時ああしていれば、あれがあれば」と悔いるのは当然のことだろう。しかし、そのどちらにも備えだけでは解決しない、いろいろな要素があったはずだ。■私が癌を発症した時も、最初は疲れがなからいから、ちょっと重い病気かもしれないという不安に変わり、はっときりした苦しみの状態へと移っていき、医学の力のお世話になって「今」がある。■大雨の警報にも、すぐには避難せずにじっとしている。家財道具を守ることを優先させる。家族を案じて家に戻ってしまう。そんな中危ないと思った時には手遅れであったり、それでも生還する人もいる。■ある日突然大勢の犠牲を生む大災害だけではなく、今この時にも、世界中、日本中で生命の危機に向かい合っている人々がいる。そのいつもを「手遅れ」だと思うことはない。助かる助からない結果で、過ぎ去った以上に早い時間は「今」だ。いつも今から始まるのだ。その結果は、奇跡なのか科学なのかかわからない。

Norimaru